

## 今福線の活用策

小村 晃一

### 1. はじめに

今年度の主な活動内容としては、今福線マップ作りのための準備として、現地踏査、地元の皆様との意見交換会を行い情報収集することであった。

### 2. 地元関係者との会合

佐野町美田会館にて11月19日に意見交換会を行った。

地元の皆様（自治会長、副会長、老人会、寿会等の代表者）の意見をまとめる。

- ・技術士会は広報活動や維持管理のための資金をだしてくれるのか？
- ・今福線の維持管理としては、集団営農組合による草刈り（年2回程度）を行っている。
- ・「おろち泣き橋」の遠景からの見通しを良くするため、木の伐採をした。
- ・法面に桜木植樹10数本を行った。
- ・現在立ち入り禁止区間となっている新線と旧線が交錯する区間については観光スポットとして適地ではないか。遊歩道や防護柵の整備が必要。
- ・今福線の地元認知度は低い（自治会長）
- ・地元で簡易な案内板作りをしたい。
- ・マップ作りは良いが、年寄りはインターネットでは見れない。
- ・トンネルを利用してJRの地震計が設置されている箇所がある。
- ・京阪神から訪れるお客がいることに驚いた。

以上を総括すると、今福線に対する地元の認知度は低く、私たちとのギャップがあることが解った。維持管理するのは結局地元の皆様に頼らざるを得ないことから、多くの住民の方々に遺構の価値を認識してもらう手段、工夫が必要だと感じた。

また、いきなりお金の話が出たのには閉口した。観光振興の予算はあるらしいが、ほとんどが「石見神楽」の資金に回ってしまい、今福線の遺構保存に対する予算は計上できないとのことであった。行動を起こすには資金・助成が必要となるが、それには確固たる活動や盛りあがりが必要で、鶏が先か卵が先かの話になる。しかし、少しづつでもこの遺産を保存・活用していく行動を起こし前進することが肝心とみる。

### 3. 活用方法について考える

技術士会として、来年度のマップ作製は必須事項となった。そして、さらには認知度を高める方法を考案しなければならない。そのためには以下のような参加型イベントを計画し、継続することも必要と考える。

- ・今福線 ウォーキング大会、オリエンテーリング大会、サイクリング大会等  
歩き道や自転車通路として安全性の確保に課題があるが、橋梁の手すり等を設けて、最適なコースを選定し、参加者を募り開催する。いずれにしても、地元主体での計画、実施が基本となろう。

- ・ 今福線 遺構写真コンテスト

橋脚と自然との調和等の写真を応募し、コンテストを開催する。季節毎の変化も撮影すれば興味深い作品となるであろう。仕事柄、私たちが撮ると現場写真、現地踏査写真となってしまうがちだが、写真マニアの方が撮れば芸術的な写真がたくさん生まれることだろう。



遺構と道路



お墓と遺構

- ・ 今福線 きも試し大会

真っ暗なトンネルの中で、特に恐怖感を覚えた有福第三トンネルにて、子供を対象としてきも試し大会を催す。ぬかるんで歩き辛く、途中足がはまって歩けなくなった場所があり、貫通するにはそれなりの体力と冒険心が必要だ。



#### 4. 最後に

今回、宿泊した「かなぎウエスタンライディングパーク」は閉鎖する間際であった。従業員が一人で宿泊や食堂のお世話をしておられた。大変である。20数頭の馬の引き取り先を探しておられるようである。広大なこの施設の再利用計画案は無いものだろうか。



営業中の看板が立っているのに、玄関のカーテンが閉まっている状況であった。